

更なる発展で住みよい土地へ～人が集まる和歌山2022～

社会班:越智柊太、竹村希、中石強、森本泰知、山田理人、中川哲太

Abstract

We were interested in the serious problem of population decline in certain areas and decided to research what would be effective in supporting population growth in Wakayama Prefecture, with a particular focus on Wakayama Prefecture. We focused on two areas: attracting companies to Wakayama Prefecture and the work-study system. Based on our data-based research, we concluded that these measures could attract mainly young people, including those of working age and those raising children, to Wakayama Prefecture. This would also increase the number of children, which would lead to the development of industry.

要約

私たちは多くの地域で深刻な人口減少問題に興味を持ち、特に和歌山県に着目して人口増加のサポートをするには何が有効なのかを研究することにした。そして企業誘致とワーケーション制度の2つに注目し、データを基にした研究からそれらの手段によって主に働き手世代や子育て世代などの若年層を和歌山県に呼び込むことができると結論づけた。またこのことにより子供の数が増加し、企業による産業の発展も見込めると考えた。

1. はじめに

私達がこの研究を始めようと思ったきっかけは「和歌山県データ利活用コンペティション」というキャンペーンだ。このキャンペーンは、データを利活用することを通して和歌山県の人口増加を促すことを目的とし、参加者に人口増加についての案を募るといふものだ。このキャンペーンのポスターを先生が持ってきてくださり興味を持ったため、この研究をすることに決めた。この研究をすることで私達は、和歌山県の人口を増やすためのサポートが出来るのではないかと考えた。そこでインターネットのデータを利用して他県の人口増加についての先例などを調査することから、研究を進めた。

2. 研究手法

和歌山県に人を呼び込むために、どのような街に人は住みたいと思うのか、県の補助としてどのような策が必要とされているのか等を調べ、和歌山県の人口を増やすために必要な政策を仮定するために、他県が人口増加に成功した例をインターネットを用いて調査した。

《調査1》

三重県亀山市では、大企業であるシャープの支社を企業誘致することに成功しており、その影響によって人口増加が実際に起こったのかどうかを調べた。

《調査2》

ワーケーションについて、調査した。ワーケーションとは自宅で仕事の作業をすることで、職場に行かずとも仕事ができる、というものである。

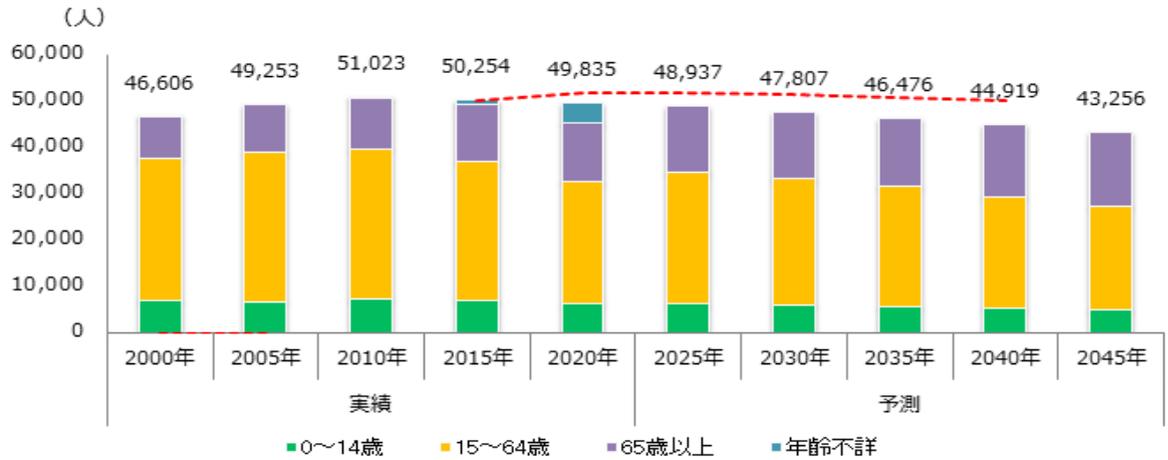
3. 結果

《調査1》

グラフより、シャープの工場が稼働し始めた2004年頃から人口が増加していることと、増加した人口のほとんどが15～64歳の生産年齢人口であることが読み取れることから、人口増加に企業誘致が影響を及ぼした可能性が高いことがわかった。

・調査1のグラフ

亀山市の人口推移



【2020年】

総面積 (km ²)	191
人口密度 (人/km ²)	260.9

平均年齢 (歳)	46.9	昼夜間人口比率 (%)	101.1
----------	------	-------------	-------

※昼夜間人口比率のみ2015年時点

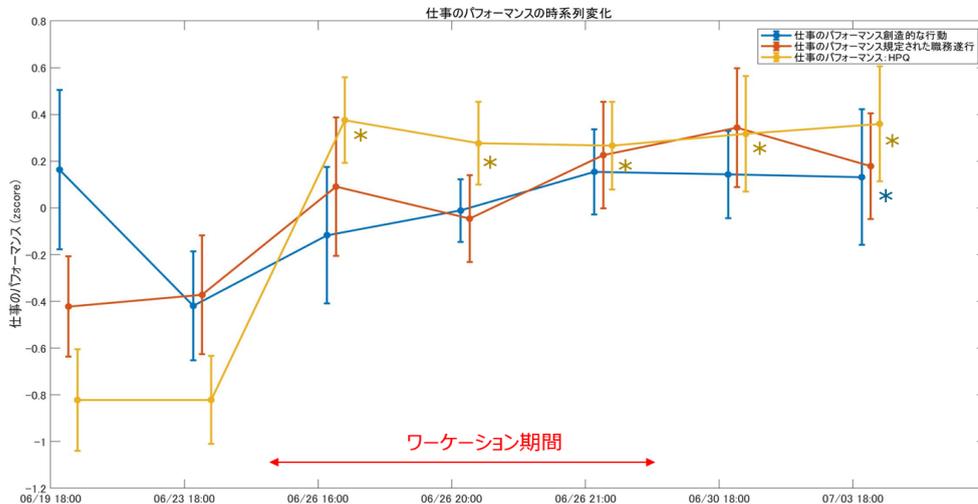
※図中の点線は前回2013年公表の「将来人口推計」の値

© jp.gdfreak.com

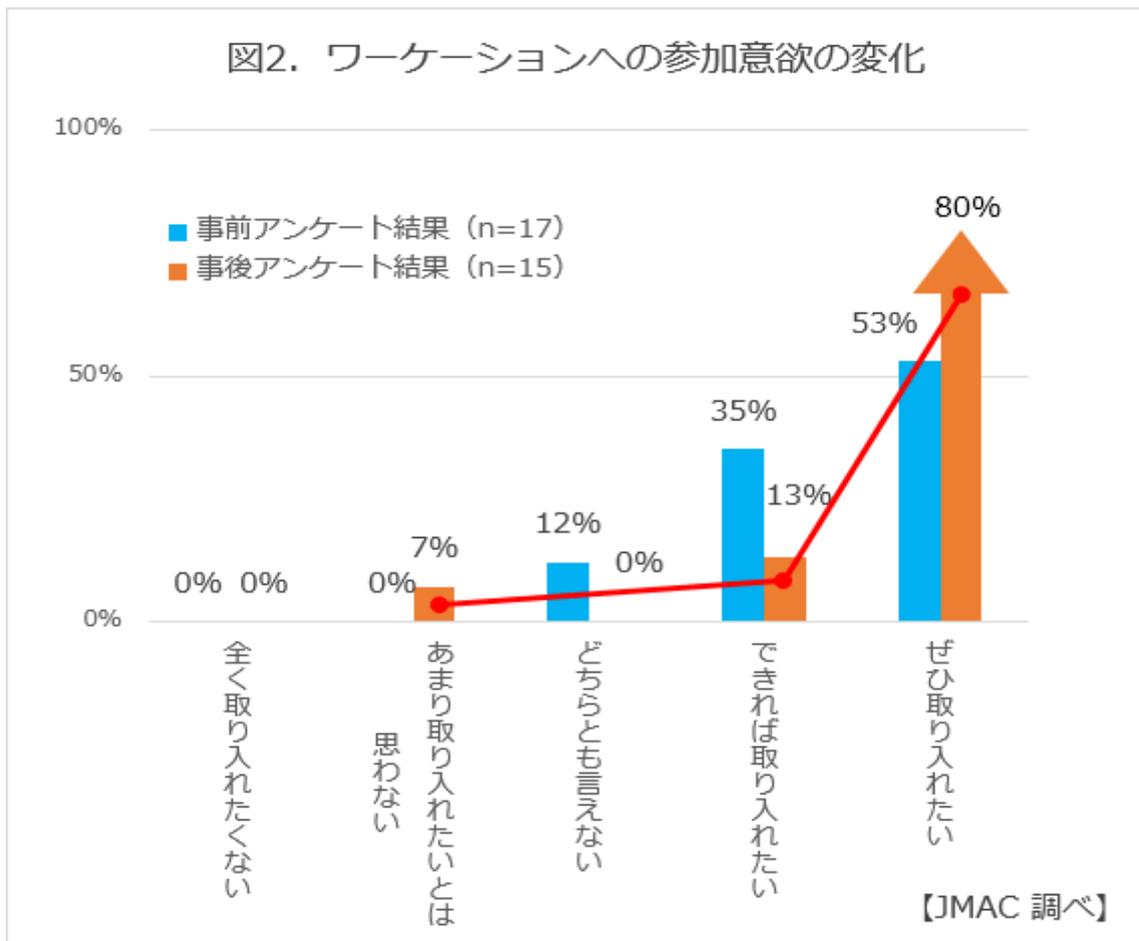
《調査2》

グラフより、ワーケーションを行った期間と同時期に仕事のタイムパフォーマンスが向上し、それに伴い生産額などが明確に上昇していることがわかった。また図2から、現在ワーケーションを取り入れている会社において、大多数の社員のワーケーションへの参加意欲が高いこともわかった。

・調査2のグラフ



・調査2の図2



4. 考察

調査1を行ったことより、働き手世代の移住が見込める企業誘致は、家族単位での移住を増やし、全体的な人口増加に一定の効果が見込めるであろうということが予想される。また調査2より、ワークーションを活用して仕事と休暇の両立を目的とした社会人を呼び込むことも可能であるということがわかった。これら2つを利用することが、和歌山再興への鍵となるのではないかと考えられる。

5. 結論

和歌山県を再興するためにまずすべきことは、働き手世代の移住が見込める大企業の誘致である（たとえば、和歌山のきれいな水などの良い環境を活用できる、ソニーや東芝などの半導体生産が得意な企業が好ましい）。なぜなら、家族単位の移住が見込めるため、大きな人口増加につながると考えられるからだ。また、その他の和歌山に働き手世代の人を呼び込む手段としては、ワークーションが有効であり、それらを活用した事業を積極的に行っていくことでの、賑やかなまちづくりを推奨する。

6. 参考文献ならびに参考Webページ

和歌山県ホームページ 和歌山県環境生活部県民局『和歌山県子供・若者計画』
 閲覧日12月21日

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/031400/seishounen/kowakakeikaku29_d/fil/kowakakeikakugaiyou.pdf

鹿島 洋『三重県亀山市における液晶企業の誘致と都市の変容』 閲覧日12月21日

https://kumadai.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=24876&item_no=1&attribute_id=21&file_no=1

三重県四日市市ホームページ『子育てエンジョイ』 閲覧日1月13日

<https://www.city.yokkaichi.lg.jp/www/genre/1000100000221/index.html>